

八戸港コンテナ定期航路就航状況(2020年1月現在)

□ 外航 □ 国際フィーダー

コンテナ航路	船社名(日本総代理店)	集荷代理店	寄港間隔	寄港地
中国・韓国航路 (共同配船)	南星海運(株) (南星海運ジャパン(株))	八戸港湾運送(株)	週3便 (火・木2便)	(NTP E/W航路) 釜山(月・火)→清水→小名浜→仙台→釜石→ 八戸(火) →苫小牧→酒田→ 釜山(日・火)→蔚山(火)→光陽(水)→上海(金・土)→寧波(日)→釜山(月・火) *南星海運(株)のみ
	高麗海運(株) (高麗海運ジャパン(株))	ナラサキスタックス(株) 八戸支店	*高麗海運 サービスは 木のみ	(NBP 航路) 釜山(土・日)→仙台→ 八戸(木) →苫小牧→舞鶴→金沢→釜山(木・土) →蔚山(土)→光陽(日)→大連(火)→天津新港(水・木)→釜山(土・日) (NCH E/W 航路) 釜山(火・木)→石狩湾新港→函館→苫小牧→室蘭→ 八戸(木) →仙台→ 常陸那珂→釜山新港(月・火)→釜山(火)→蔚山(水)→光陽(木)→ 連雲港(土)→青島(日・月)→釜山(火・木)
韓国航路 (協調サービス)	長錦商船(株)(株)シノコー(株) 興亜LINE(株)(株)シノコー(株)	八戸通運(株) 北日本ポート サービス(株)	週2便(火・金)	(THS2 航路) 釜山(日)→直江津→秋田→苫小牧→ 八戸(金) →釜山/釜山新港 (月・金)→仙台→ 八戸(火) →苫小牧→釜山新港/釜山(土)
北米航路	Westwood Shipping Lines (セノマリタイムエージェンシー(株))	八戸港湾運送(株)	休止中	シアトル・バンクーバー・釜山ほか
国際フィーダー 航路	(株)横浜コンテナライン	八戸通運(株)	週1便(金)	横浜・仙台・宮古・苫小牧
	井本商運(株)	八戸港湾運送(株)	週1便(木or金or土)	横浜・東京・苫小牧・仙台
	鈴与海運(株)	八戸港湾運送(株)	週1便(金)	横浜・苫小牧

主な寄港地と八戸港の所要日数(最短)(2020年1月現在)

寄港地	輸出	輸入	寄港地	輸出	輸入
釜山(韓国)	3	4	タンジュン(インドネシア)	16	22
光陽(韓国)	6	※	ムンバイ(インド)	25	25
蔚山(韓国)	5	※	ポートクラン(マレーシア)	19	19
基隆(台湾)	9	16	ドバイ(UAE)	28	22
台中(台湾)	10	16	タコマ(米国西岸)	21	21
高雄(台湾)	11	16	ロングビーチ(米国西岸)	18	18
香港(中国)	12	13	シアトル(米国西岸)	21	21
大連(中国)	12	9	ニューヨーク(米国東岸)	38	38
青島(中国)	9	12	バンクーバー(カナダ)	23	19
上海(中国)	10	11	プリズベン(オーストラリア)	31	21
天津新港(中国)	13	8	オークランド(ニュージーランド)	40	28
寧波(中国)	12	9	サウザンプトン(イギリス)	29	35
蛇口(中国)	15	17	ルアーブル(フランス)	30	35
シンガポール	19	20	ブレーメル・ハーフェン(ドイツ)	32	35
レムチャパン(タイ)	15	28	ハンブルク(ドイツ)	43	44
マニラ(フィリピン)	16	23	ロッテルダム(オランダ)	41	42
ホーチミン(ベトナム)	13	19	アントワープ(ベルギー)	41	49
ハイフォン(ベトナム)	19	14			

*光陽・蔚山(韓国)については、釜山にまどめた後に輸入されています。

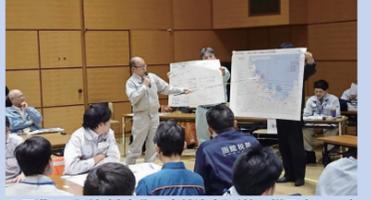
みなと通信



地震・津波による大規模災害時においても港湾物流機能の早期回復が重要であることから、八戸港に立地する企業や関係行政機関などで構成される八戸港湾機能継続協議会は「八戸港湾機能継続計画」(八戸港BCP)を策定し、災害時の行動計画や役割をとりまとめています。

八戸港湾機能継続協議会では、この八戸港BCPに基づき災害時を想定した訓練を毎年実施しており、初動・情報伝達訓練や被害調査訓練、応急復旧方針決定訓練などを行っています。協議会では、今後も継続的に訓練を実施するとともに、八戸港BCPの検証・更新を行い、被災時においても港湾物流機能が早期に回復されるよう取り組んでいきます。

八戸港BCP訓練(応急復旧方針決定訓練)の様子(H30.12)



国土交通省 東北地方整備局 八戸港湾・空港整備事務所 TEL:0178-22-9391 FAX:0178-45-7239

八戸港ご利用のお問い合わせは次の各社へ!

- 海貨業者**
- ◆八戸通運株式会社 海運部
(株)シノコー(株)横浜コンテナライン 集荷代理店
TEL:0178-29-0202 FAX:0178-20-3281
 - ◆八戸港湾運送株式会社 コンテナ事業部
(南星海運ジャパン(株)、WSL、井本商運(株)、鈴与海運(株)、オリエントオーバーシーズコンテナラインリミテッド(OOCL)日本支社、インターエイシアライン(株) 集荷代理店)
TEL:0178-29-3177 FAX:0178-29-3130
 - ◆新丸港運株式会社 営業部
TEL:0178-20-2325 FAX:0178-20-2356
 - ◆八戸運輸倉庫株式会社 営業部
TEL:0178-28-2401 FAX:0178-28-6976
 - ◆三八五流通株式会社 八戸区域事業所
TEL:0178-52-7755 FAX:0178-52-7751
 - ◆日本通運株式会社八戸支店
TEL:0178-20-3040 FAX:0178-20-3154
 - ◆ナラサキスタックス株式会社八戸支店
(高麗海運ジャパン(株) 集荷代理店)
TEL:0178-21-6000 FAX:0178-21-6050
 - ◆北日本ポートサービス株式会社
(SITC JAPAN(株)、三栄海運(株) 集荷代理店)
TEL:0178-20-2148 FAX:0178-29-3130

- 海運会社(国内総代理店)**
- ◆南星海運ジャパン株式会社 【東京都】 中国・韓国航路 TEL:03-5843-6100 FAX:03-5843-6110
 - ◆高麗海運ジャパン株式会社 【東京都】 中国・韓国航路 TEL:03-3500-5051 FAX:03-3500-5095
 - ◆株式会社シノコー(株) 【東京都】 韓国航路 TEL:03-6278-6032 FAX:03-6278-6038
 - ◆三栄海運株式会社 【東京都】 韓国航路 TEL:03-3273-4981 FAX:03-3281-8605
 - ◆セノマリタイムエージェンシー株式会社 北米部 【東京都】 WSL:北米航路
TEL:03-5733-7203 FAX:03-5733-7208
 - ◆株式会社横浜コンテナライン 【横浜市】 国際フィーダー航路(横浜)
TEL:045-227-8863 FAX:045-681-8885
 - ◆井本商運株式会社 【神戸市】 国際フィーダー航路(東京・横浜)
TEL:078-322-1600 FAX:078-322-1620
 - ◆鈴与海運株式会社 【静岡市】 国際フィーダー航路(東京・横浜)
TEL:054-354-3100 FAX:054-354-3102
【東京営業所】 TEL:03-3432-7159 FAX:03-3432-0896
 - ◆オリエントオーバーシーズコンテナラインリミテッド(OOCL) 日本支社【東京都】インド・東南アジア航路(横浜港トランシップ)
TEL:03-3493-6001 FAX:03-3493-6405
 - ◆インターエイシアライン株式会社 【東京都】 東南アジア航路(横浜港トランシップ)
TEL:03-3580-6555 FAX:03-3580-6575
 - ◆SITC JAPAN株式会社 【東京都】 中国・アジア航路(横浜港トランシップ)
TEL:03-6262-7778 FAX:03-6262-7117
 - ◆ジャパン・パン・ラインズ株式会社 【東京都】 小口混載貨物サービス(輸出)
TEL:03-6779-9610 FAX:03-6779-9650
 - ◆イーキューワールドワイド株式会社 【東京都】 小口混載貨物サービス(輸出入)
TEL:03-5643-3600 FAX:03-5643-3606



八戸港国際物流拠点化推進協議会
Hachinohe Port Promotion Commission
事務局 / 八戸市商工労働観光部商工課 貿易振興グループ
〒031-8686 青森県八戸市内丸一丁目1-1 八戸市庁別館5階 TEL.0178-43-2111(代表) TEL.0178-43-9244(直通) FAX.0178-43-2256
(E-mail) hppc@hachinohe-port.org (ホームページ) https://hachinohe-port.org/

2020年1月発行第48号

発行所 八戸港国際物流拠点化推進協議会

企画編集(株)テクノス

もっとすごい!

PORT OF HACHINOHE

2020年1月発行 NO. 48

ハチヨウ




- TOPIX**
- P2・南星海運(株)と高麗海運(株)が中国・韓国航路において新たな航路を開業
 - ・イーキューワールドワイド(株)が小口混載貨物サービスを開始
 - P3・八戸港を利用した青森県産りんごの輸出試験を行います
 - ・木質バイオマス発電所が相次ぎ稼働を開始
 - P4・2019年八戸港コンテナ貨物取扱量統計(速報値)
 - P5・韓国ポートセールスミッションを実施
 - ・八戸セミナー2019開催
 - P6・ベトナム現地バイヤー及び国内バイヤーを招聘
 - ～ASEAN向け通年マッチング支援事業～
 - ・第4回黒にんにくサミット in八戸2019を開催しました!
 - P7・輸出に繋がる取引の開始を/JETRO青森
 - P8・航路情報、各お問い合わせ先等

南星海運(株)と高麗海運(株)が中国・韓国航路において新たな航路を開設

文／八戸港国際物流拠点化推進協議会 書記 泉山 健一

南星海運(株)と高麗海運(株)の共同配船で運航されている中国・韓国航路において、10月31日から中国の天津新港・大連港に寄港する「NBPサービス」が新たに開設され、同航路における八戸港への寄港回数が週2便(火・金)から週3便(火・木2便)に増便されました。

八戸港は、この5年で韓国船社3社、台湾に意思決定機関を置く日本船社1社、中国船社1社、小口混載サービス業者1社が新たに参入し、荷主にとって輸出入時の選択肢が増えるなど、港の利便性が高まっております。

■NBPサービス内容

1	名称	中国・韓国航路 【NBP (NEW BOHAI PENDULUM) サービス】
2	実施者	南星海運(株)及び高麗海運(株)
3	開始日	2019年10月31日(木)
4	便数	週1便(木曜日)
5	寄港地	仙台(水)→八戸(木)→苫小牧(土)→舞鶴(月)→ 金沢(火)→釜山(木・土)→蔚山(土)→光陽(日)→ 大連(火)→天津新港(水・木)→釜山(土・日)→仙台(水)



■近年の船会社参入及び航路拡充の状況

YEAR	MONTH	DAY	内容
2015	4	1	インターエイシアライン(株)が集荷サービスを開始
2015	10	27	長錦商船(株)が新たに国際コンテナ定期航路の韓国航路を開設
2016	7	5	SITCコンテナラインズが集荷サービスを開始
2018	10	31	高麗海運(株)が中国・韓国航路でサービスを開始
2019	1	11	韓国航路の寄港回数が週1便から週2便に増便
2019	5	17	興亜海運(株)が韓国航路でサービスを開始
2019	10	31	中国・韓国航路の寄港地が追加され、寄港回数が週2便から週3便に増便
2019	12	6	イーキューワールドワイド(株)が新たに小口混載貨物の輸出入サービスを開始

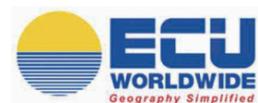


イーキューワールドワイド(株)が小口混載貨物サービスを開始

文／八戸港国際物流拠点化推進協議会 事務局 書記 濤岡 亜紀

海上混載世界最大手のイーキューワールドワイド(株)が2019年12月6日に八戸港での小口混載貨物サービス(常時のみ)を開始しました。同サービスは、長錦商船(株)の定期航路を利用し、釜山港経由で八戸港と世界各国の拠点をつなぐ輸出入を可能とするため、八戸港の更なる利便性向上が期待できます。

八戸から世界へ



海上小口混載

釜山経由で世界各国をカバー

毎週金曜日出港
船社: Sinokor
CFS: 八戸通運(株)2号ふ頭倉庫



【サービス事業者】
イーキューワールドワイド(株)
東京都中央区日本橋堀留町1-9-6
ゼネラルビル6F
Tel: 03-5643-3600

【集荷代理店】
八戸通運(株) 海運部 海運営業所
八戸市大字河原木海岸36-11
Tel: 0178-29-0202

八戸港を利用した青森県産りんごの輸出試験を行います

文／八戸港国際物流拠点化推進協議会 書記 泉山 健一

八戸港国際物流拠点化推進協議会では、開設を目指す東南アジア航路の貨物量の増大を目的として、八戸港から台湾及び香港向けに県産りんごの試験輸送を実施し、輸出上の課題整理と新たな輸送モデルの構築を図ります。

調査対象地域

- ①台湾 県産りんごの最大の輸出先で輸出量は毎年約2万トン。物流経費の軽減効果を調査するため、八戸近隣の南部町産のりんごを扱うこととし、集荷-植物検疫-バンニング-港搬入までの一貫輸送を検討する。
- ②香港 台湾に次ぐ輸出先第2位の地域であり、タイやベトナムに比べて輸出規制がなく、年間を通じて継続的な取引が行われている。また、農林水産品の輸出拡大を掲げる青森県が重点地域に位置付けており、長期にわたって安定的な輸出が期待できる。

実施内容

- ①台湾 品 種: 南部町産サンフジ
物 流: 南部町の選果場で植検、南部町八戸間をトラック輸送、八戸でバンニング
輸 出: 八戸港から京浜経由で台湾(基隆港若しくは高雄港)へ輸出
時期等: 輸出時期は1月下旬を予定、輸出回数1回、輸出品数 約500箱
- ②香港 品 種: 弘前産王林
物 流: 弘前八戸間をトラック輸送、八戸でバンニング
輸 出: 八戸港から京浜若しくは釜山経由で香港へ輸出
時期等: 輸出時期は1月~2月上旬を予定、輸出回数1回、輸出品数 約1000箱

木質バイオマス発電所が相次ぎ稼働を開始

文／八戸市産業労政課 濱谷 祐輔

固定価格買取制度(FIT)開始以降、再生可能資源である木からエネルギーをつくる「木質バイオマス発電」が着目され、市内では2か所の発電所が稼働を開始しています。バイオマス発電所では八戸港から使用燃料の一部を輸入しており、燃料調達を通じた港湾の利用促進が期待されています。

○八戸エコエネルギー発電所

【運営会社】 エム・ピー・エム・王子エコエネルギー(株)
【出資会社】 王子グリーンリソース(株)、三菱製紙(株)
【営業運転】 2019年9月
【発電規模】 74,950キロワット
【使用燃料】 木質チップ(48万t)
…東南アジアからの輸入と
国内林地残材・間伐材
パームヤシ殻(10万t)
…インドネシア、マレーシアからの輸入
石炭(2万t)
…海外からの輸入



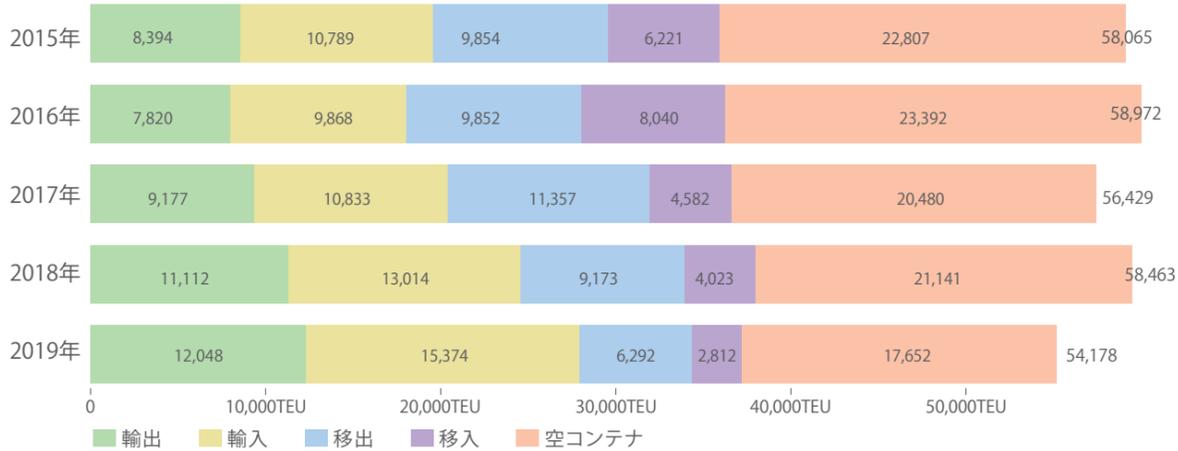
○八戸バイオマス発電所

【運営会社】 八戸バイオマス発電(株)
【出資会社】 住友林業(株)・住友大阪セメント(株)・東日本旅客鉄道(株)
【営業運転】 2018年4月
【発電規模】 12,400キロワット
【使用燃料】 木質チップ(9万t)、パーク(2万t)
…国内林地残材・間伐材
パームヤシ殻(2万t)
…インドネシア、マレーシアからの輸入
※使用燃料は年間数量。



2019年八戸港コンテナ貨物取扱量統計(速報値) (単位:TEU)

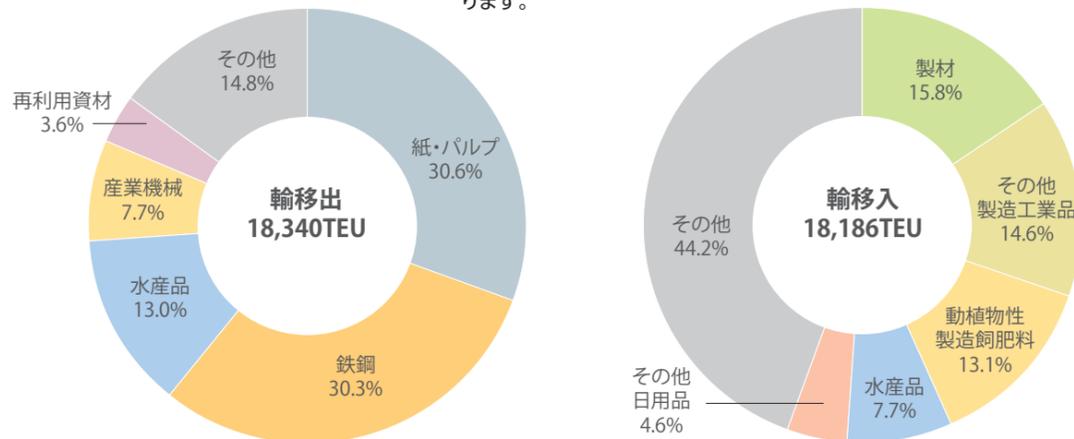
取扱量の推移



※TEUとは、コンテナ船の積載能力を示す単位で、1TEUは20フィートコンテナ1個分を示します。コンテナを単純合計数で表示する代わりに、20フィートコンテナ1個を1、40フィートコンテナ1個を2として、コンテナ貨物量をこの数値の合計で表示する計算方法です。

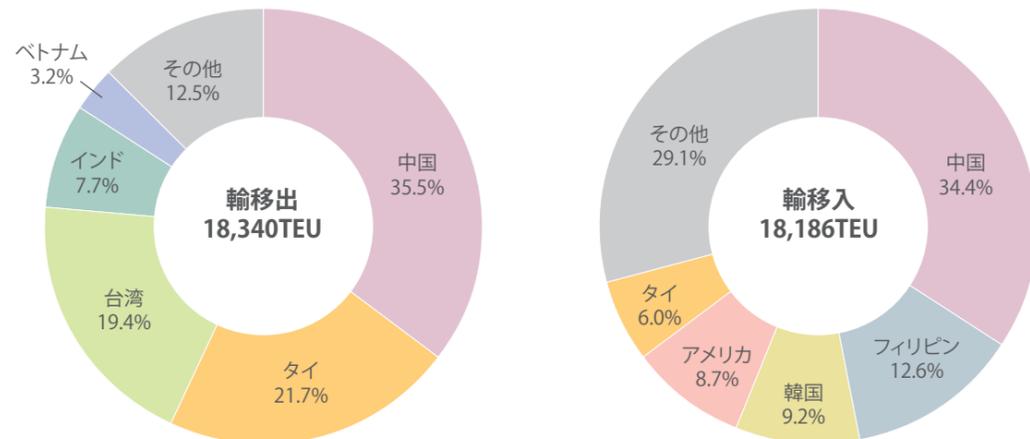
2019年 コンテナ貨物品種別内訳

2019年のコンテナ貨物の品別内訳(コンテナ個数での割合)を見ると、輸移出では紙・パルプの30.6%、輸移入では製材の15.8%が第1位となっております。



2019年 コンテナ貨物国別内訳

国別の内訳を見ると、輸移出は中国がタイを抜いて35.5%で1位、輸移入は、昨年に引き続き、中国が34.4%で1位となりました。輸移出・輸移入ともにアジア各国との取引が半分以上を占めております。



※端数処理の関係で合計は100になりません。

韓国ポートセールスミッションを実施



文 / 八戸港国際物流拠点化推進協議会 書記 和島 将彦

八戸港では、現在、中国又は韓国と直接結ぶコンテナ定期航路として、韓国船社4社により、4航路・週5便のサービスが運行されています。1998年に初めて韓国航路1航路が開始されて以来、多くの韓国船社が参入し、中国への航路延伸や寄港便数の増加等、サービスの拡充が図られています。そのコンテナ取扱量は、年々増加傾向にあり、これら航路の八戸港における重要性が高まっています。

このようなことから、八戸港国際物流拠点化推進協議会と八戸市は、2019年11月12日～15日の期間、韓国(釜山広域市・ソウル特別市)に渡航し、「八戸港韓国ポートセールスミッション2019」を実施しました。



釜山港湾公社

渡航中は、コンテナ取扱量世界第6位である釜山港を管理する釜山港湾公社や、八戸港でサービス展開する韓国船社を訪問し、サービスの維持及び拡充を要望するとともに、八戸港発展に向けた意見交換を行いました。

各訪問先において、大変な歓迎を受け、今後も連携しながら共同して取り組んでいくことを、改めて共通認識したところであり、とても有意義なミッションとして終えることができました。今後とも、積極的なポートセールスを展開し、八戸港の振興に努めて参ります。

八戸セミナー2019開催

文 / 八戸港国際物流拠点化推進協議会 事務局 書記 瀧岡 亜紀

八戸市・八戸港国際物流拠点化推進協議会・八戸市企業誘致促進協議会は、八戸港の利用促進及び当市の立地環境の優位性を首都圏及び中部圏の企業にPRするため、2019年7月24日に東京、翌25日に名古屋で「八戸セミナー2019」を開催しました。

セミナーには船会社をはじめ、荷主や関係者など延べ487名(東京400名、名古屋87名)の皆様にご出席いただきました。

はじめに、八戸市長から企業誘致や八戸港の利用促進を図るための各施策を紹介しました。

その後、東京会場では、三菱製紙株式会社 代表取締役会長 鈴木邦夫氏、アルバック東北株式会社 常務取締役 兼田良勝氏、並びに八戸通運株式会社 取締役 海運部長 前森一成氏から、名古屋会場では八戸工業高等専門学校校長 圓山重直氏、朝日インテック株式会社デバイス事業部精密加工技術グループマネージャー 杉村宏夫氏から、それぞれ八戸進出のメリットや八戸港の優位性についてご講演いただきました。

情報交換会では、セミナーの内容を踏まえた積極的な意見交換・交流を通して、世界に開かれた八戸市・八戸港の魅力をご個別にPRし、八戸セミナー2019の幕を閉じました。



第24回 八戸セミナー2019(東京会場)の様子

ベトナム現地バイヤー及び国内バイヤーを招聘 ～ASEAN向け通年マッチング支援事業～



文 / Year-round ASEAN oriented matching support service 実行委員会 事務局員 高橋 華絵

当実行委員会は、地場産品の東南アジアへの販路拡大を目的として、2019年9月17日(火)～19日(木)の3日間、ベトナムでレストラン等を展開する現地バイヤー達を八戸市に招聘し、商談会を開催しました。

この事業は、県内の2自治体(八戸市、青森市)と、地元銀行3行(株みちのく銀行、(株)青森銀行、青い森信用金庫)で構成する当実行委員会が主催するもので、今年で2年目となります。今年度は、11社が新たに参加し、水産加工品や農産加工品、肉、菓子類、日本酒の地元メーカー等、計24社が参加しました。

初めの2日間は、八戸ポータルミュージアム(はっち)において商談会を実施し、取引成立に向け、各社の自慢の商品を現地バイヤーへ積極的にPRいたしました。

3日目に開催した工場見学では、製造工程を直接確認し、具体的な商品説明ができたことから、現地バイヤーに大変好評でした。

このほか、今年度は、商品のPR動画の制作や、現地での販売促進活動(ベトナムホーチミン市内でのレストランでのプロモーションやホーチミン高島屋でのデモンストレーション)などを行い、更なる地場産品の販路拡大に取り組むこととしております。

ベトナムをはじめとする東南アジアへの販路拡大に関心のある県内事業者様がございましたら、実行委員会事務局の八戸市商工課(0178-43-9244)にお問合せください。



招聘バイヤーへ積極的に商品をPR

第4回黒にんにくサミットin八戸2019を開催しました!

文 / 協同組合青森県黒にんにく協会 黒にんにくサミット実行委員会 さとう だいすけ 佐藤 大輔

海外25カ国へ展開する「青森の黒にんにく®」のさらなる普及・拡大を目指し、協同組合青森県黒にんにく協会は、2019年9月6日(金)、八戸プラザホテルにおいて「第4回世界黒にんにくサミットin八戸2019」を全国19都道府県、海外2カ国から330名の参加により開催しました。

サミットでは、黒にんにく誕生秘話や、フランスやイギリスにおける黒にんにくの取組み、研究者による黒にんにくの機能性等についての講演の他、2018年から運用が開始された「黒にんにくにおける食品安全認証制度」の認定式や、世界黒にんにく料理コンテスト表彰式が行われました。

また、本サミットには、地元八戸市の中学生も参加。海外の講師には英語で質問し会場を沸かせるなど、新たな地域産業として成長を続ける「青森の黒にんにく®」が、社会に深く根付いている様子が垣間見られました。

サミット後は、クルーズトレイン「四季島」初代総料理長岩崎均氏ら国内有名シェフが調理した黒にんにく料理の饗宴が開かれました。

サミットは2020年も引き続き開催する予定です。

〈問い合わせ先〉
協同組合青森県黒にんにく協会 TEL.0178-56-5317



会場の様子



「黒にんにくにおける食品安全認証制度」認定企業

輸出に繋がる取引の開始を

文 / ジェトロ青森貿易情報センター 所長 木村 慶一

日本の輸出額は、2018年は過去最高の約80兆円規模でしたが、19年はそれを割る見通しとなっています。中国向け輸出も過去最高の15兆円超から縮小する見込みで、米国が再び最大の輸出相手国となりそうです。

ジェトロ青森は、青森県や八戸市をはじめとした自治体からのご支援を賜りつつ、海外との貿易や投資に関わる情報提供をしています。例年、事務所の貿易相談件数は300～400件で、農水産食品分野の輸出に関する相談が大半を占めます。今年度(10月末迄)の同分野に関する相談対象国の内訳は、中国、タイ、カンボジア、台湾、ベトナムの順で、アジア圏が6割と相談の主流を占めました。青果施設の規制強化に関わる相談でタイが増えたほか、日系企業進出先として引き続き関心が高いカンボジアが加工食品を中心に、規制把握、契約・輸送各段階での相談で増えました。県農水産食品輸出先として、台湾(80億円規模)に次いで多い香港(50億円規模)は、緊迫した香港情勢で新規取引や輸出量の減少の影響を受け、同時期の相談件数も前年同期比6割程度に減少しています。

2020年は、日本産牛肉の中国への輸出が再開する見通しとなっており、今後さらに鶏肉鶏卵乳業の動きも期待され、県内畜産品輸出にも追い風となりそうです。



市場が縮小する国内から海外取引へのシフトは、中長期的には必要性を認識するものの、労働力確保もままならない県内中堅中小企業にとっては、ハードルが高いと考えます。まずは、海外販売網をもつ企業との国内商談・取引をお勧めします。県内に居ながら、購買力のある海外の市場にアクセスできます。

電子商取引(EC)は、いまや世界の小売総額の2割に達する勢いですが、日本企業の海外ビジネスでの活用は進んでいません。独自サイトの構築で盛り上がりつつも、購買者不在で数年間も持たないこともあります。海外ECサイトに直接出店するときでも、その手間やコスト、在庫リスクなどを認識せずに、軒並み失敗する例が絶ちません。

また、大手物流会社による海外ECサイトでの販売を一気通貫で行うサービスを使用したものの、委託販売形式のため、売れ残った場合に処分するか、有料にて返品が必要で、実際には赤字が出てしまう例もあります。ジェトロでは、こうした状況に応え、海外主要ECサイトにJapan Mallなる日本商品販売売を設け、中小企業にとってもリスクが低い、国内取引で行える取組を行っています。海外での販促イベント後に、同サイトに誘導できれば、継続輸出の可能性も高められると考えます。

そのほか以下の事業も行っています。

- 1) 県内中堅企業の「高度外国人材(大卒院卒以上)」導入支援(インターン研修実施、伴走型支援)
- 2) 海外へ挑戦するベンチャー企業への支援(プレゼン能力アップの研修を含む、世界で行われるイベント〈年間17本〉への参加支援等) ご関心のある企業の方は、当事務所までご連絡下さい。

日本貿易振興機構(JETRO)
青森貿易情報センター
〒030-0802 青森市本町1-2-15 5階
Tel.017-734-2575 Fax 017-773-2877